

「市長、出勤！まちトーク in 富士」議事録

令和7年4月12日（土）

富士公民館

※意見交換の内容は要約しています。
(太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。)

【意見項目】

- 1 パークゴルフ場について
- 2 金福寺、大野代官所跡について
- 3 企業誘致について
- 4 富士支所出張所について
- 5 イノシシ対策について1
- 6 温泉病院の経営、小児科について
- 7 子どものUターン、定住（協力隊の方）について
- 8 イノシシ対策について2
- 9 北部の中学校について
- 10 衛（ちどり）の湯の老朽化について
- 11 スポーツイベント しゃくなげ湖活用について
- 12 交通ネットワークについて

【意見交換内容】

1 パークゴルフ場について

市の指定管理者として、パークゴルフ場の維持管理をしています。

12年が経過して施設そのものに傷みが生じており、計画的に補修等をしてはいますが、なかなか追いついていない部分があります。

最近では県外からだけでなく、韓国からも年に1,000名を超える方にパークゴルフを楽しんでいただいております。全体としては年に1万8,000人ほどの方に来ていただいている、北部九州でも唯一と言っていいぐらいの施設です。

大変良い施設を作っていただいたことに感謝申し上げますが、施設そのものや整備用の機器が老朽化していますので、その手当について、ご検討をお願いします。

(市長)

まずは、神水川パークゴルフ場を地元で管理していただいていることに感謝申し上げます。

先日、ちょうど桜が満開のときに行かせていただきました。景色がすごく美しい中、たくさんの方が利用されていて、これは観光の強みになるなと感じたところです。

お話にありましたが、パークゴルフは韓国で人気があって、韓国の方は九州にあるパークゴル

フ場を何箇所か回るといった話も聞きました。そうしたところはチャンスであり、インバウンドはまだ「伸びしろ」があると思っています。「パークゴルフを楽しまれた後に、古湯温泉に入って1泊してもらい、ご飯も食べてもらう」といったような行動導線について、佐賀市の観光部局も一緒に意見交換しながら考えていきたいと思っています。

ご指摘のあった老朽化対策についても考えていきたいと思っています。

2 金福寺、大野代官所跡について

大野地区には、江藤新平が幽閉されていたという金福寺があります。

また、襲われたときに身を隠していたという洞穴もあり、数年前に一度整備していただきましたが、屋外施設のため、雨の影響などで痛みが生じています。

そのほかに、「大野代官所跡」という教育委員会が管理している施設もあります。

明治維新時代のもを含め、歴史的文化的な施設があるものの、大野地区は嘉瀬川ダムが建設されたことで多くの方が水没移転され、以前と比べると人口が約7分の1に減ってしまい、なかなか手当てができていない部分があります。文化施設への支援等をお願いします。

(市長)

当時、江藤新平の「脱藩」は、死罪だったわけですが、鍋島直正公の判断で、金福寺において「蟄居」になったということです。

大野代官所跡の目代が江藤新平に寺子屋を開いてもらったとか、洞穴に隠れていたのではないかというストーリーは大変ロマンがあって、歴史的にも大変価値があることだと思いました。

現地を見させていただいて、何かできることがないか、検討していきたいと思っています。

3 企業誘致について

富士町に対して様々な取組をしていただいておりますが、新たな企業の誘致等があればお聞かせください。

最近、大和の消防署南にある工業団地に新たな企業が入ってきて、車両の交通量が増えることなどで活性化しているのではないかと思います。企業が進出すれば、地域住民の雇用機会も得られると思います。

(市長)

「富士町南部工業団地」では、半導体関連企業の生産量や出荷量が非常に増えたことに伴い工業用水がさらに必要になったということで、取水施設を令和5年度から6年度にかけて整備しました。

このような「事業規模の拡大」ということでも、雇用拡大につなげていきたいと思っています。佐賀大和IC工業団地は完売しましたので、新たな工業団地の適地調査に別途、取り組んでいるところです。

また、「工業団地」という形ではありませんが、新しく移住されてきた方々が古湯キャンプで「チャレンジショップ」という形で出店されています。

今後も、山が持つ様々な「地域資源」を生かしてチャレンジする取組に対し、いろんな形でサポートしていきたいと考えています。

4 富士支所出張所について

平成の合併から 20 年、中山間地域では合併のデメリットが大きいという声があります。富士校区は、昭和の合併では、今回の会場が位置する古湯の「南山」、「関屋」、北部の「北山」の三地区が合併し、面積では佐賀市最大です。

次回のまちトークはぜひ、「北山」にある富士北部コミュニティセンターにもお越しいただきたいと思います。

そして、北山の中心地である中原に、富士支所の出張所を開設していただくとともに、地元出身の職員の配置をお願いします。

また、交通弱者である高齢者に対して、特にきめ細やかなサービスをお願いします。

(市長)

ぜひ、富士北部コミュニティセンターにも足を運んで、いろいろお声をお聞きしたいと思います。

北山、南山、小関の 3 地区が合併したのが昭和 30 年代ということで、もう 70 年近くが経ち、ご不便をおかけしている部分もあると思います。

先ほどお話した「リモート窓口」のアイデアは、本庁と支所を結ぶ、初めての取組です。

ご不便を感じておられる方に、こうした「オンライン」や「リモート」の技術も活用しながら、サービスの利便性向上につながる手立てがないか、知恵を絞っていききたいと思います。

「リモート窓口」は、今年の 10 月頃にスタートする取組ですが、こうした取組を行いながら、次の展開などもよく考えていききたいと思います。

5 イノシシ対策について 1

山間部で 1 番困っていることは、イノシシの問題だと思います。

全国的にも困っていると思いますが、なかなか有効な対策が取れていません。

例えば、狩猟免許を取得しやすくするなど、イノシシ対策について積極的に考えていただけないでしょうか。

(市長)

イノシシ対策は、対策協議会の皆さまにも対応していただいています。イノシシの数が増えてきているなか、会員の数がなかなかそこに追いつかない状況です。

侵入防止柵の設置などを行っていると思いますが、他に、何か方法がないか、ぜひ私も考えていきたいと思っています。他の地域では、センサーを設置してイノシシを感知したら通知する仕組みで、人的負担を軽くする例もあると聞いています。

イノシシ対策は大事だと考えていますので、担当部局と有効な手段について一緒に考えていきたいと思います。

6 温泉病院の経営、小児科について

富士大和温泉病院の経営状況や将来ビジョンについて、考えを聞かせていただけないでしょうか。

富士町でも、近くの富士大和温泉病院ではなく大和町や佐賀市中心部にある民間病院や総合病院を受診される人もいると聞き、10年後や20年後がすごく心配になりました。現在、特別支援教育や発達障害の心配があるお子さんの家族の方々が、いろんな形態の医療機関を受診されるケースが多くなっていますが、受診までに数か月待ちという状態でお困りの方がいます。

富士大和温泉に小児科を開設し、佐賀市内だけでなく県外からも受診できるシステムが構築できれば、受診者も増え、教育や保育にもプラスの面が出てくると思います。

(市長)

富士大和温泉病院は、コロナの時期を経て経営的な課題があると思っており、院長や事務長と話す中で、経営診断なども検討しています。

医療機能とともに介護にも力を入れていき、「介護医療院」という介護機能を新たに拡充することで、経営改善にもつなげていきたいと思っています。

特別支援教育の関係では、これまで3歳児健診以降は就学時健診まで健診を行っていませんでしたが、新たに5歳児健診を始めます。

5歳児ぐらいから様々な特徴を把握しやすくなるので、就学前の適切な支援につなげていきたいと思っています。

また、発達障害児者のトータルライフ検討会で、医療機関の皆さんや小児科、専門家、教育関係者と集まって議論しています。切れ目のない支援をしていくため、協議会の皆さんに協力していただきながら、診察待ちという状況の改善にも努めているところです。特別支援の関係も非常に大事だと思いますので、いただいたご意見も参考にさせていただきます。

7 子どものUターン、定住（協力隊の方）について

私は4年前に「地域おこし協力隊」として東京から移住してきました。

私が移住して中山間地の振興について感じたことは、地元の方の子どもや孫が富士に戻ってきていないのではないかとことです。

高校進学などで佐賀市の平野部や福岡に出て就職し、そのまま戻って来ないという状況が多いように感じます。

私は、移住者に頼るのではなく、地元の人が子どもや孫に「戻ってきてくれ」と言える、もしくは子どもたちが「戻ってきたくなる」対策をしたら良いのではないかと思います。市長はどのように考えられているのでしょうか。

(市長)

地域おこし協力隊の皆さんや経験者の皆さんのいろんな気付きを聞きながら、移住される方にも魅力あるところになるよう、さらに魅力を磨いていきたいと思います。

「富士に戻ってこない」という問題は、「不便」に感じる部分があることと、外から見たときに感じる「魅力」が、地元の人には「魅力」と感じられていないことが原因になっていると思います。「不便」に感じる部分は、例えば、交通に関するデータを分析して、より良い手段を探ることや、リモートなどデジタルによる様々な手段を活用して解決する方法などがあると思います。

先日、富士でテレワークをしましたが、空気やロケーションが素晴らしくて、ストレスフリーなすごく良い環境でした。古湯キャンプを利用されている方も、そのように感じておられる方がいるのではないかと思います。

このような「魅力」を磨きながら、戻ってきたいと思えるようなエリアにしていきたいと思いますし、不便を感じておられる部分については、できる限りその部分を緩和していくことを考えていきたいと思います。

「稼げる仕事」ということで考えた場合、農業や林業はいろんな条件などがあって、難しい部分もあると思います。

一方で、トレーニングファームの皆さんが育っていけば、夫婦や世帯がしっかりと生活していける「モデル」ができて、若い方たちの選択肢になると思います。このエリアに「戻ってきたい」、「残りたい」と多くの人が考えてもらえるような取組を一緒に考えていきたいと思います。

8 イノシシ対策について2

先程もイノシシ被害の意見が出ましたが、イノシシは田んぼに入るだけでなく、様々な場所を掘り返すため水路を塞いでしまうことがあり、災害の発生にも大きく影響しています。

「災害が起こらないように」と地域の皆さんが、後片づけをしている状況なので、そのことについても考えていただきたいと思います。

(市長)

イノシシが水田だけでなく水路を塞いで問題を起こしているということですね。

耕作放棄地が増えると、そこが新たな住処になって、様々な被害にもつながると思います。

イノシシの動態などもよく研究しながら、対策を考えていきたいと思います。

9 北部の中学校について

三瀬や富士町の小中学校は、入学生が少なくなってきました。唐津や伊万里は合併をしている状況です。山間部の学校について、どのようにお考えでしょうか。

(市長)

子どもの数が減っている中、佐賀市北部地域における中学校の今後の在り方に関する問題は、非常に大きなテーマだと思います。

小学校5校、中学校4校の児童生徒数が縮小していくことが予想されている中、昨年、北部

地域の中学校の在り方についてアンケートを取ったところ、「中学校の再編を進めたほうが良い」「再編の検討はやむを得ない」という回答が64%という結果でした。

保護者の方、学校、地域住民の方は、それぞれに様々な考えをお持ちのことだと思います。こうしたアンケート調査の結果も慎重に分析しながら、子どもたちにとって良い教育環境となるよう丁寧に話し合いを進めていきたいと思っています。

10 衛（ちどり）の湯の老朽化について

「衛の湯」は30年が経過したこともあり、昨年度は2週間程度機械が壊れる状況でした。老朽化対策をお願いします。

（市長）

「衛の湯」は、30年が経過するという事です。よく現場を見させていただいて、一緒に考えていきたいと思っています。

11 スポーツイベント しゃくなげ湖活用について

富士町のしゃくなげ湖は、カヌーやボートといった水面で行う競技を実施していますが、湖周辺の環境を利用したスポーツイベントも開催しており、スポーツ協会がハーフマラソン大会を行っています。現在も支援していただいておりますが、今後もよろしくをお願いします。

（市長）

しゃくなげ湖のハーフマラソン大会は、しゃくなげ湖の景色を見ながらランニングするということが大変好評ですし、地域の皆さんは豚汁のおもてなしに取り組んでいただいております。水上の競技場もにぎわいの拠点にしたいと思っていますし、お話しいただいた湖周辺部分の活用についてもよく話し合いながら進めてまいります。

12 交通ネットワークについて

富士町は面積が広いので、交通ネットワークとしていろんな交通手段を取ることが難しいことは理解しています。

富士町のコミュニティバスを利用するには、交通会社が4社あり、予約制の便についてはそれぞれに予約が必要であるため使いにくいと高齢者の方から話を聞きます。

利用しやすいバスの予約方法について、今後、私たちと一緒に考えていただけないでしょうか。

また、高校生は昭和バスとコミュニティバスを使って通学していますが、定期代が高く金銭的な負担が大きい部分がありますので、市から補助する施策を考えていただきたいと思っています。

(市長)

この北部エリアは、車がないと生活が難しい場所であり、かつ高齢化も進んでいるということで、公共交通は大変重要なテーマであり、その利用者の裾野が広がっていくことで持続可能になると思っています。

お話しいただいたことは、予約する際の利便性を高めることができないか、手間を何とか工夫できないかというご相談だと思います。

高齢の方にとって、予約する際にデジタルツールのみを使いこなすことは、なかなか難しい部分もあると思いますので、業務の効率化などで活用できる部分はうまくデジタルを活用し、それ以外の部分はこれまでのアナログの部分と組み合わせることなど工夫しながら、より良い方法を考えていきたいと思えます。

それから高校生のご家庭で、コミュニティバスと昭和バスを使って通学されている方について、ご負担がかかっているというお話をいただきました。

いろいろなコストが上がっており、昭和バスは定期を改定されていますが、コミュニティバスについては高校生の通学定期券を 2,000 円にしてほかのカテゴリーよりも安くしており、皆さんの負担軽減に努めているところです。今後も様々な事例を参考にしながら研究してまいります。